

民俗学者のふるさと妖怪の里



福崎町とはどんな所？

福崎町は播州または播磨の国と呼ばれ、姫路市の北部に位置し、人口2万人ほどである。その中心にあたる辻川は古くには南北に生野街道、東西に北条街道が交わる交通の要衝であった。辻川とはその名のとおり街道が交差する辻であり、要所であった。特に生野銀山と南の飾磨港との物流が盛んで、柳田國男が幼少時には日本初の馬車専用高速道路「通称銀の馬車道」が通っていた。今も南北にはJR播但線や播但連絡道路、東西には中国道が走り、人や物が流れる動脈であることは変わらない。

その一方で、周囲を緑の山々に囲まれ、中央部には清流市川が流れる豊かな風土と歴史遺産に恵まれた場所でもある。小さな町にもかかわらず、多くの偉人を生んだ「学問・芸術文化のふるさと」でもある。「遠野物語」など著作で知られる「日本民俗学(※)の父」である柳田國男が幼少期を過ごしたのが、ここ福崎町である。後年彼はこう記している。「自分の故郷はごく平凡な風景だが、日本にも稀なよい土地だった」と。

柳田國男は全国各地の妖怪に関する伝承や逸話を研究した「妖怪研究の父」としても知られ、福崎町では近年河童をはじめとする妖怪での町おこしが盛んである。

(※)民俗学……民間伝承(ならわし・しきたり・言い伝えなど)の調査を通して民族文化(主に一般庶民の生活・文化)の発展の歴史を研究する学問。名もなき人々が築き上げてきた文化がどのように表現され、どのような形で存在し、どう推移してきたかを探求する「もう一つの歴史学」でもある。

柳田國男とは？

明治8年（1875）7月31日儒学者松岡操の六男として生まれた。長じて東京帝国大学に学ぶ。「なぜ農民は貧しいのか」という疑問から農政学を志した。大学卒業後は農商務省に入り官僚の職に就いた。そのかたわらで、農政指導でたびたび訪れた岩手県遠野地方の伝承や逸話などを聞き書きした「遠野物語」など、風俗・文化の中から日本人の特質を求める民俗学への道となる書を著した。

明治34年27才の時に柳田家の養子となり、柳田姓になった。

大正8年45才で官を辞した後、民間にあつて研究に専念し、庶民の生活のなかに生き続ける信仰・習慣・伝承・儀礼・行事を訪ねて全国を歩き、日本民俗学の礎を築いた。

昭和26年文化勲章を授与され、さらに昭和37年福崎町名誉町民第一号となった。

昭和37年（1962）88才で亡くなった。



松岡家五兄弟とは？

松岡操、たけ夫婦は男ばかり8人の子宝に恵まれた。3人は早世したが、5人は成人し、それぞれの分野で才能を開花させた。

- ・長男 松岡鼎……師範学校卒業後郷里の小学校校長になったが、のち東京帝国大学で学び、医師となり、千葉県の現在の我孫子市で開業した。県の医師会長を務め、また千葉県の郡会議員となり、地方自治にも貢献。
- ・三男 井上通泰……医師井上家の養子となる。東京帝国大学に学び、眼科医となる。歴史学にも造詣が深く、歌人としても有名。貴族院議員。
- ・七男 松岡静雄……海軍兵学校を首席で卒業。日露戦争や第一次大戦の対独戦に従軍。軍令部参謀などを経て海軍大佐で退官。その後言語学者として多くの業績を残した。
- ・八男 松岡輝男……映丘。東京美術学校を首席で卒業後母校の教授となる。大和絵の研鑽と発展に生涯をかけ、日本画壇に大きな影響を与えた。

①柳田國男生家

「私の家は日本一小さい家だ」。柳田國男は生家について、著書「故郷七十年」でこう記している。かやぶき屋根に10mほどの間口、四畳半2間と3畳2間、土間など。このあたりの農家に多かった田の字の間取りに、一時は7人が住んでいたそうです。

生家はもと辻川の街道に面していたが、昭和49年に國男ゆかりの地、鈴ノ森神社の傍に移築・復元された。

同じ著書の中で「じつはこの家の小ささという運命から私の民俗学への志も源を発したといつてよい」と



述べている。家の問題、家族の問題、社会の問題は密接にかかわるという視点を最初に得るきっかけになったのであろう。

②柳田國男・松尾家記念館

柳田國男と、様々な分野で活躍した國男の兄弟の功績を顕彰するために昭和 50 年（1975）に開館した記念館。柳田國男が愛用した書斎机・著書の初版本や松岡映丘の画稿など貴重な資料が豊富に展示されている。



③神崎郡歴史民俗資料館

明治時代の代表的洋式建築である旧神崎郡役所の建物が移設され、昭和 57 年（1982）資料館となった。この建物は明治 19 年（1886）郡役所として建設された。郡制廃止後老朽化により一時は取り壊しの運命にあったが、国・県・郡内の各町の助成で現在地に移築・復元された。

神崎郡の歴史や、当地方で使われていた生活用具、農具などの民俗資料が展示されている。



④鈴ノ森神社

「明神様」と呼ばれ、安産の神様として信仰された。以前には村人は子供が生まれるとこの神社に小豆飯をお供えしたとか。

「播磨鑑」には播磨の国中の神様が集まった場所と。

柳田國男が子供のころよく遊びにきていた場所である。神社の境内には町の天然記念物になっているヤマモモの巨木がある。子供たちは毎日この木を登り降りして楽しんでしたが、彼は木登りを止められていたとか。その代わりに、拝殿の前に鎮座している狛犬に何度も乗っていたという。



「うぶすなの 森の山もも こま狗は なつかしきかな 物いわねども」

兄の井上通泰はこの「うぶすなの森」を詠んでいる。

⑤有井堂

旅をしていた神積寺の開祖慶芳上人が、このお堂に泊まった時、夢のお告げにより、神積寺を建立したとされている。

この堂の床下に犬が数匹の子犬を産んでいるのを柳田國男とその兄弟が見つke、堂の床下にもぐりこんで子犬を捕まえ、楽しく幼年期を過ごしたそうである。

⑥大庄屋三木家住宅

三木家は英賀城主の子孫とされ、のちに飾磨で飾磨津屋と称する酒屋を営んでいたが、明暦元年（1655）姫路藩主の新田開発の呼びかけに応じ、辻川村に移り住んだと伝わる。江戸時代を通じて代々姫路藩の大庄屋を務め、地元の川の水路を整備するなど地域の発展に大きく貢献した。



約 1900 m²の敷地に宝永 2 年（1705）築の主屋をはじめ、蔵など 9 棟が残っている。

三木家と松岡家は代々学問的交流があり、柳田國男は 10～11 才のころ 1 年ほど三木家に預けられたことがある。三木家には歴代の当主が収集した大量の書物があり、幸いなことに國男は自由に読むことを許された。この時の多種多様な本を読みふけた体験が、のちの民俗学を生む基礎となった。

この三木家住宅は 9 棟のうち 6 棟を改修し令和 2 年（2020）11 月 1 日にホテルとしてオープンした。（朝日新聞 2020. 10. 29 朝刊）これは改正文化財保護法によりこれまで保存が重視されてきた文化財を観光や地域振興のために活用することが可能になったことによるもので、重要有形文化財に日本で初めて宿泊ができるようになった。

「私はこの三木家の恩宜を終生忘れることができない。」

（「故郷七十年」 幼児の読書）

⑦もちむぎのやかた

福崎町特産で、そばでもなく、うどんでもない独特の食感のもちむぎ麺を味わうことができ、また製麺工場の見学もできる。

⑧辻川山公園の妖怪

柳田國男の著書「故郷七十年」に、ふるさとのかっぱ伝承について述べている。いわく「辻川あたりでは河童はガタロというが、随分いたずらをするものであった」と。市川の駒ヶ岩あたりに住み、近くを泳いでいると尻子玉（しりこだま 河童が人間のお尻から抜くと言われている架空の臓器）を抜かれて溺れ死ぬとか。

この伝承をモチーフにして 2 匹の河童の兄弟、ガタロウとガジロウがこの公園の池にいます。

- ・ **ガタロウ**……池のそばで尻子玉を手にガジロウを見つめている。じつはお皿が乾き、動けなくなり固まっている。



- ・ **ガジロウ**……皿が乾かないように水の中に住んでいる。池に架かる橋を渡る人を驚かそうと顔をだす。実は秘密の地下トンネルを泳いで公園と駅前を行ったり来たりしているとか？



- ・ **妖怪小屋の逆さ天狗**……地上 3m の位置に作られた気味悪い小屋から、「わしも写真とってくれや〜」と飛び出してきたのは逆さ天狗。手には大好物だというもちむぎどらやきを持っている。小屋に戻る前に関西弁で独特のセリフをはくが、その内容は時間により変わるとか。

⑨妖怪ベンチ

福崎町には妖怪たちがたくさん住んでおり、その妖怪たちと一緒に座って写真が撮れる「妖怪ベンチ」が町内に 19 ケ所 (2021. 12 現在) 点在している。リアルで怖い妖怪たちと一緒に写真撮影はいかが。

今回のコース中には 7 つの妖怪ベンチがある。

- 「アマビエ」 駅前交流広場
- 「猫また」 グルメミートにしおか
- 「河童」「雪女」 辻川観光交流センター
- 「油すまし」 辻川山公園
- 「座敷童子」 もちむぎのやかた
- 「海ぼうず」 ミートショップ松井



(次回予告)

2022.6.18

兵庫史を歩く No.27 清和源氏のふるさと その 2
 頼光寺～川西市郷土館～小童寺